

## 令和2年度 第1回 立科町テレワーク推進会議 議事録

### 会議概要

開催日時：令和2年11月20日（金）14時から16時まで

開催場所：立科町ふるさと交流館「芦田宿」（立科町テレワークセンター）

#### 1 開会（事務局：立科町 竹重企画課長）

皆さん改めましてこんにちは。Web会議の為、着席のまま失礼致します。本日はご多用の中お集まりいただき誠にありがとうございます。定刻になりましたので、ただ今から令和2年度第1回立科町テレワーク推進会議を開催いたします。

私はしばらくの間会議の進行を務めます、立科町企画課長の竹重です。よろしく願いいたします。初めに両角町長からあいさつを申し上げます。

#### 2 あいさつ（立科町 両角町長）

皆さん改めましてこんにちは。ただ今司会のほうから話がありましたように、Web会議ということで、私も座ったままごあいさつをさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

本日は遠方よりお越しいただいていた方や、Web会議によりご参加いただいている方がいらっしゃるかもしれませんが、それぞれ大変お忙しい中、お時間抑えていただき感謝を申し上げるところでございます。本日ご参加していただく予定としていた15名のうち8名の方がWeb会議での参加をいただいたところであります。

テレワークが一気に世の中に浸透し、Web会議が当たり前となり、お集まりの方々にとっては手慣れたものだと思いますけれども、遠隔でのご参加の皆さんも遠慮せず思っていることをご発言いただき、実のある会議となりますようお願い申し上げます。

当町のテレワーク推進事業は、平成29年度から本格的に動きはじめ、平成30年度に本日ご参加の皆さんが中心となって「立科町テレワーク推進コンソーシアム」という協議体を立ち上げ、皆さんの議論のおかげで、平成31年4月のテレワークセンター開設に結びつき、着実に事業が進められておりますことに、改めて感謝を申し上げます。

今年に入ってテレワークやワーケーションという言葉が一気に社会に浸透しました。最近では多くの自治体が、テレワーク施設やワーケーション施設を立ち上げて、企業の地方誘致や関係人口の増加に結びようとしている中、当町はこれまでの取り組みを軸に、浮かれることなく、真に地域の事業者や住民の利益に結びつき、更に社会の要請に応えられる取り組みを、着実に進めていく所存でございます。

多様な人たちが町のあらゆる場所でインターネットと情報機器を活用して、仕事を通じた社会参加を果たすという社会福祉型テレワークの実現を目指して、当町はしっかりと進めてまいります。

本日は今年度から始まった新たな取り組みを中心に、事務局から進捗状況や現在の課題、そして今後の予定について説明させていただきます。多くの関係する皆様と情報を共有しながら、事業を推進していただきたいと思っております。どのような事でも結構でございますので、ご発言をお願いいたします。Web会議でご参加の方も、積極的なご意見をお願い申し上げます。

本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

**(事務局：立科町 竹重企画課長)**

本日、町長はこのあと公務の為、ここで退席となりますが、ご了承ください。

・ ・町長退席 ・ ・

本日ご参加の皆さんは別添、名簿の通りです。まず構成員の皆さんから、一言ずつお声をいただきたいと思ひます。それでは名簿順でお願いいたします。最初にネットワンシステムズ株式会社の尾形様からお願いいたします。

**(ネットワンシステムズ株式会社 尾形様)**

ネットワンの尾形でございます。本日はお招きいただきましてありがとうございます。

先ほど、榎本さんと久しぶりにお会いできました。きっかけを作っていたのが榎本さんで、長野市の情報化フェアの中で手塚と店を開いて、女性活躍推進ということで、まずはご支援できないかと話しをしたところ、立科町に非常にユニークというか、やる気のある企画員がいるということで、そのときに上前さんにお会いしたのが5年前くらいになります。そのあと総務省のふるさとテレワークの実証実験ですとか、いろいろな実証実験を通して、この数年間やってきたと。

まさかこんなコロナ禍になるとは思わなかったのですけれど、そういう意味ではここ数年の蓄積されたノウハウが、今まさに生きているのではないかなと思っております。

テレワークのほうも営業チームもできまして、非常に積極的にやられている姿も拝見させていただきました。これから非常に期待というか楽しみに思っておりますので、私も大切なテレワーク事業として、今後とも関わっていききたいと思っております。よろしくをお願いいたします。

**(ネットワンシステムズ株式会社 手塚様)**

同じくネットワンシステムズの手塚と申します。本日はお招きありがとうございます。

今尾形からも話がありましたように、5年くらい前に榎本様からお声をかけていただき、それがきっかけで立科町さんとの付き合いが始まったのですけれども、当時テレワークという言葉すらもまだ走り始めたところで、そもそもテレワークとはなんですかというところの勉強会など、そういったところからスタートして、でももう気が付いたらこんな素晴らしい施設ができていて、どんどん町の方々もテレワークに入られて、それでビジネスをしていくのだというところまで来ているというのは、当初から関わらせていただいている立場としては、非常に頼もしくまた嬉しく思っております。

最近私も他のビジネスなどが忙しく、あまり立科町さんのほうに顔を出せていないのですけれども、引き続きいろいろとご支援させていただければと思ひますので、どうぞよろしくお願いいたします。

**(沖電気工業株式会社 松山様)**

沖電気松山です。本来、今日お伺いする予定だったのですけれども、いろいろ事情もありというか、東京のほうもだいぶひどい状況もあるので、今回は遠慮させていただくことにしました。すみません。また機会があればお伺いしたいと思ひます。

テレワークということで、いよいよコロナ禍という話もありましたけれども、本格的に移住も進み、全国的に首都圏から広がってきているような時代がきているような感じがしてしまひて、今度はいよいよ

仕事をうまく、人も含めて移動できればいいなと思っております。

加えて、もともと立科町でやっていたような事業が今回うまく進んでおり、重ねてお力になればと思っておりますので引き続きよろしく願いいたします。以上です。

**(株式会社沖ワークウェル 堀口様)**

沖ワークウェルの堀口です。皆さんおっしゃられております通り、新型コロナウイルスの逆な部分で、在宅勤務・テレワークというのが非常に脚光を浴びて、急速に浸透してきて、これから立科町も自然豊富なワーケーションというところの部分へのステップも進むでしょうし、在宅勤務・サテライトオフィスでの勤務という、テレワークの形態自体が、すべての人たちにとってメリットがあるような形になっていくという動きになると思います。

沖ワークウェルは、重度の障がいがあるメンバーが在宅勤務をやっておりますが、障がい者も含めて、すべての人たちが共生していくような、働きやすい環境づくりという形で、今後皆さんとディスカッションをしながら進めていければなということで、少しでもお役に立てればという風に思っております。よろしく願いいたします。

**(事務局：立科町 竹重企画課長)**

新経済連盟の小木曾様はまだいらっしゃっていないので、高畑様お願いいたします。

**(株式会社 FM Bee 高畑様)**

こんにちは。なかなかコロナがひどくなったこともありますけれども、そちらにお伺いできないのほとても残念です。

私のほうは、テレワークというのは全社あげてずっとテレワークしていますので、今回 GO TO キャンペーンもあったので、ワーケーションとかで立科町を利用させていただこうかなという企画もあったのですが、なかなか大阪もコロナがひどくなってきましたので、見合わせるというような状況ではあるのですが、ぜひ参加させていただきたいと思っております。

最近私のほうは「コロナ鬱」というものがあるのですが、IT の技術者も鬱になりやすいというがあるので、そういった精神のケアというところに力を入れております。ですので、そういうところでもワーケーションを利用できたらなと思っておりますので、またよろしく願いいたします。以上です。

**(事務局：立科町 竹重企画課長)**

ありがとうございました。次にフィールドデザイン宮下様お願いいたします。

**(株式会社フィールドデザイン 宮下様)**

フィールドデザイン宮下です。私は3年ほど前くらいに研修の講師として立科町さんとお仕事させていただいて、その頃から比べるとコロナ禍の影響もあって、ワーケーションという言葉など、当時はあまり使ってなかった言葉がすごく浸透してきているというところをすごく感じているところでありまして、いろいろな地域で携わっている中でも、立科町さんのこの取り組みというのとはとても素晴らしい取り組みをされているなというところで、最近少し離れてしまっているところもありますが、今後も私もお力

になっていければいいなと考えております。よろしく願いいたします。

**(事務局：立科町 竹重企画課長)**

ありがとうございます。次に TOSYS の横沢様お願いいたします。

**(株式会社 TOSYS 横沢様)**

株式会社 TOSYS 横沢でございます。直前までそちらにお邪魔するつもりでいたのですが、特に長野県内で長野市方面がひどいことになっておりまして、私どもの会社としても県内の移動も自粛という扱いになっておりまして、急遽テレワーク・在宅で参加させていただきます。

今日まさに私は在宅でありまして、背景は私の自宅の中が写っているのですが、一緒に参加させていただいている井川とはもう一か月くらい会っていないです。ずっと在宅勤務しております。ただ毎日のようにこのように Web 会議で顔を合わせて会話もしているものですから、一か月も会っていないという印象すらないというような状況でございます。テレワークというのが非常に浸透してきて、私どももテレワークをお客様に提案している会社でありますので、コロナという状況は大変だということもありますが、世の中テレワークをどんどん活用していくというのはいい方向かなという風に思います。

私どもの会社は、コンソーシアムに参加させていただいているとともに、お仕事もお願いしているという関係もございまして、そういう意味でより良い業務運営、そういったところにご意見させていただければなと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。ありがとうございました。

**(事務局：立科町 竹重企画課長)**

ありがとうございます。井川様お願いいたします。

**(株式会社 TOSYS 井川様)**

株式会社 TOSYS の井川でございます。横沢からお話しありましたが、急遽 Web 会議での参加に変更させていただいて、申し訳ございませんでした。ありがとうございます。

私は今社内から入っております。先ほど横沢がお話ししましたが、Web 会議は社内でもフル活用していて、会わなくともコミュニケーションが取れるということで、テレワークにも私ども自身もだいたい慣れてきたのかなということで、いろいろ課題はあるのですが、テレワークという形態が今後一般化していくという中で、どういう風に活用していくのかというところを、社内でも検証しながら進めているところでございます。

私ども、3年前から立科町様とこのテレワークの事業で、PC のスキル研修でしたり、テレセールス・営業系の研修というものを企画して、実施させていただいてきたということで、その頃から考えると、先ほど他の方からもお話がありましたが、まるでコロナ禍を予測するような形で事前に始めてきたのかなということで、まさに今それが実際に役に立っている、活用出来ているということなのかなという風に思います。弊社からお仕事をお願いしているというところもあるのですが、弊社の中でも試行錯誤で初めての試みということもあって、まだまだ課題山積なのかなという部分もありますが、そういった問題点も含めて、今後一緒にどういった形でこの事業を仕上げていけるか一緒にやらせていただきたいなと思っておりますので、今後もよろしく願いいたします。

**(事務局：立科町 竹重企画課長)**

ありがとうございます。続きまして県の石田課長補佐、お願いいたします。

**(長野県企画振興部 石田様)**

先端技術活用推進課、石田と申します。今日はお邪魔できなくて誠に申し訳ございません。出席者を拝見させていただきましたら、尾形さんや手塚さん、そして塩尻の方、非常に懐かしい方々にお会いできて嬉しく思っております。

私も4年前情報政策課に在籍しておりましたおりに、立科町さんがテレワークをお取り組みになった、総務省のご支援いただいているふるさとテレワークの実証事業で関わる事ができて、それから数年たったわけですが、立科町でも非常に素晴らしい取り組みをされているということで、非常に感慨深いところです。

このコロナ禍において、県においても、それまでほとんど使っていなかったテレビ会議を月に大体500件以上利用されていたり、それから県職員も自宅で仕事ができる環境を実は4年前に構築したのですけれどもあまり使われてなかったところ、今回コロナの関係で、延べ7,000~8,000件のテレワーク実施件数が増えてきているということで、そちらも非常に感慨深いところです。

総務省にご支援いただいて、たくさんの方でふるさとテレワークの自治体の取り組みが増えて、そしてテレワーカーの方や雇用創出がはかられている状況をみますと、非常に当時の思いといいますか、皆さんの努力で広がってきたなという風に思います。

今後、最近リゾートテレワークやワーケーションと言葉はいろいろございますけれども、目指すところはほとんど同じなのかなと考えております。また聞くところによれば、以前は2-3日という短期滞在だったのですが、コロナ禍で長期滞在者が増えてきているという情報も聞いておりますので、そういった対象の方も含めて今後広く取り組んでいけたらいいなと思っております。

今日は立科町の取り組みを勉強させていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

**(事務局：立科町 竹重企画課長)**

ありがとうございます。次にテレワークセンターのサテライトオフィスに入らせていただいているアシストビジョン様、お願いいたします。

**(株式会社アシストビジョン 乙吉様)**

アシストビジョンの乙吉と申します。よろしく申し上げます。こちらに私が出席させていただききっかけとなりましたのは、3年ほど前、立科町が首都圏のIT事業者を無作為に抽出した500社というところでアンケート調査を実施されたのですけれども、そこに抽出された企業としてアンケートに答える形で、立科町さんの取り組みを知りまして、私のほうから企画課の上前さんにコンタクトをとらせていただいて、いろいろお話させていただいたことがきっかけで、本日も出席させていただいているような形でございます。

弊社としての具体的な取り組みなのですが、弊社としましては、立科町および周辺地域から新卒

の人材を採用いたしまして、3年から5年、首都圏で基本的なITの技術やマネジメント力を身につけさせて、そして郷里であるこちらの方にお返しするという取り組みを現在行っております。それによってこちらの周辺の若者の流出による過疎化に歯止めをかけるということと、弊社のメリットとしましては従業員の通勤時間ゼロを、今皆さんからお話しいただいている通り、テレワークというのが当たり前の社会になってまいりましたけれども、それより少し前から従業員の通勤時間をゼロに近づけるという目標を掲げまして、こちらの立科町さんの取り組みにぜひ協力させてほしいということで、一緒にコンソーシアムに参加させていただいております。今後ともよろしく願いいたします。

**(事務局：立科町 竹重企画課長)**

ありがとうございます。オールスプラウツの武藤様は欠席なので、次に塩尻市振興公社、柳澤様お願いいたします。

**(一般団体法人塩尻市振興公社 柳澤様)**

塩尻市振興公社、柳澤です。私どもも立科町のテレワーク、最初から関わらせていただいております。特にそちらにいらっしゃいます、ネットワンの手塚さんと一緒にテレワークとはというセミナーをワーカーさんにしたのを先ほど話を聞いていて思い出したところで、今その頃を思い出すと著しい成長をしている立科町さんだなどというところで、今は営業女子の皆さんと私たちも学ばせていただきながら、どううまく仕事をとってくるかというところを一緒にやらせていただいております。

上前さんや牧内さんを中心とした、この人材育成や雰囲気作りが、すごく良い感じに動いているのだなというのを感じますし、先駆者として最初にワーカーさんの育成に関わらせていただきましたが、今は学ばせていただいているという感じが多いですし、契約的に私たちが関わっていくところはあるのですが、ある程度自立したところの自分たちの得意分野の仕事であったり、拠点の強みを生かしたところをうまく動かしているというような印象を受けて、一緒にやらせていただいております。

今日はオブザーバーという形で、うちの青山と下平も同席させていただいているかと思いますが、そういったメンバーも皆さんの育成に関わらせていただいて、共に育っていきましょう、共に仕事をやっていきましょうというような感じで、やっている振興公社となりますので、立科のみなさま、引き続き、よろしく願いいたします。

**(事務局：立科町 竹重企画課長)**

ありがとうございます。次に商工会、古川様お願いいたします。

**(立科町商工会 古川様)**

立科町商工会、古川と申します。本日はよろしく願いいたします。皆さまおっしゃられている通り、テレワークに対する取り組みというのは今後ますます重要になってくるなというところで、商工会といたしましては、皆様と良く連携をさせていただきながら、また商工会員さんの声をよく取り上げながら、テレワーク推進してまいりたいと思っております。

本日はよろしく願いいたします。

**(事務局：立科町 竹重企画課長)**

ありがとうございます。次に社会福祉協議会、櫻井様お願いいたします。

**(立科町社会福祉協議会 櫻井様)**

立科町社会福祉協議会、相談支援専門員の櫻井と申します。よろしくをお願いいたします。障がい者福祉の部分で皆さまと関わらせていただくようになるかと思えます。

他の地域の方からテレワークの件の話がありまして、今月入ってから佐久小諸圏域で、障がい者福祉に携わっている事業者のほうから、40代男性でテレワークできないでしょうかという具体的なお問い合わせもいただいております。

ぜひここで皆さんといろいろな話し進めていけることができたら、他の地域のモデル事業としても提案ができるのではないかなと思っております。ぜひよろしくをお願いいたします。

**(事務局：立科町 竹重企画課長)**

ありがとうございます。今回はオブザーバーとして名簿に記載させていただいた方々にもお集まりいただいております。

オブザーバーの方々にも一言ずつお声をいただきたいと思えます。それでは名簿順でお願いいたします。最初に総務省信越総合通信局の藪井様からお願いします。藪井様は音声のみとなります。

**(総務省 信越総合通信局 藪井様)**

信越総合通信局の藪井でございます。私ども総務省ではふるさとテレワークを始め、今回ご利用いただいているいろいろな施策を推進させていただいているところです。

例えばコロナの関係で、先ほどお話しがあったアシストビジョン様のように首都圏の企業が首都圏ではお仕事ができないということで地方に分散していている感じなので、今後のテレワークの方向性というのが段々固まってきているのかなという風に考えております。

ただテレワークを進めていくにあたりまして、技術的なものでしたり、労務的なものであったり、社員同士のコミュニケーションであったり、いろいろな問題が段々発生してきていると思えます。そうしたことについて、私どもに声をいただきまして、施策に反映させていただきたいと思えますので、先ほど皆さんのお話しにありました、お邪魔できなくて申し訳ありませんとありましたけれど、そうおっしゃらずに、遠隔会議をどんどん活用していただきまして、いろいろな課題がありましたらそれを私どものほうにいただければと思えます。

今後この会合のご発展についてお祈り申し上げて、ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

**(事務局：立科町 竹重企画課長)**

ありがとうございます。次に新潟県糸魚川市 久保田様お願いします。

**(新潟県糸魚川市 久保田様)**

皆さんこんにちは。新潟県糸魚川市 企業支援室の久保田と申します。糸魚川市では平成31年の3月

にテレワークオフィスを開設しまして、約1年半の運営を終えたところです。

その中でいろいろと学びたいことがありまして、先日立科町さんの視察にお伺いさせていただきました。そのご縁で、今日オブザーバーというお名前をいただき、参加させていただいております。

お世話になります。どうぞよろしくお願いいたします。

**(事務局：立科町 竹重企画課長)**

ありがとうございます。次に糸魚川の小出様をお願いします。

**(BASE968糸魚川拠点マネージメント 小出様)**

皆さんこんにちは。新潟県糸魚川市の小出薫と申します。私自身は株式会社を経営しております、糸魚川市のテレワークオフィスの運営に携わらせていただいております。

本日、立科町様の取り組みをおうかがいできるということで楽しみにしております。よろしくお願いいたします。

**(事務局：立科町 竹重企画課長)**

ありがとうございます。次に塩尻市振興公社、青山様よろしくお願いいたします。

**(一般財団法人塩尻市振興公社 青山様)**

塩尻市振興公社でアドバイザーをさせていただいております、青山です。今振興公社の経理とテレワーク事業のアドバイスをさせていただいております、基本的には元々経理の出身でございます、そのあたりの知見があるもので、今振興公社で経理に携わらせていただいて、公社という立ち位置から、事業会社の立ち位置での、流用と応用が利くような形の一つ上を目指すというところについてご協力させていただいております。

バックオフィス業務についてはある程度知見がありますので、そのあたりをぜひ立科町のこれからのテレワーク事業の一つの請負として、何かしら私がお役に立てるのであればということで、参加させていただいております。よろしくお願いいたします。

**(事務局：立科町 竹重企画課長)**

ありがとうございます。同じく塩尻市振興公社、下平様よろしくお願いいたします。

**(一般財団法人塩尻市振興公社 下平様)**

塩尻市振興公社の下平と申します。振興公社の経理を担当しております、来月12月から2月にかけて立科町の住民ワーカーさんを集めた営業力強化セミナーを開催することに携わらせていただきまして、本日は参加させていただきました。よろしくお願いいたします。

**(事務局：立科町 竹重企画課長)**

ありがとうございます。次に立科町の議会議員の皆さん、名簿順で申しわけございませんが、中島建男議員様からお願いいたします。



**(立科町議員 中島健男様)**

皆さんこんにちは。議会議員 中島健男です。実際テレワークという話は2年前初当選した時以来で、ここでこういうことをやっているのだということを知った次第で、これから勉強させていただくという身分なのですが、話を聞いていますと、この田舎の立科町でも充分テレワークを活用して、将来のためになるというものが段々分かってきましたので、これからも勉強させていただきます。よろしくお願いいたします。

**(事務局：立科町 竹重企画課長)**

ありがとうございます。次に田中三江議員様お願いいたします。

**(立科町議員 田中三江様)**

立科町議会議員 田中三江です。今日は本当にありがとうございます。私は一番高齢でございまして、こういった機械には不慣れでございます。ですがコロナ禍の中で、東京に研修に伺うのですが、それができなくなり、Zoom会議等に参加させていただいて、研修を受けるような形にしております。そのようなことからこういったことに、もう少し自分でも近づければいいなと思って参加させていただいています。

立科町が益々こちらのほうに力が入るような形になっていければいいなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

**(事務局：立科町 竹重企画課長)**

ありがとうございます。次に芝間教男議員様お願いします。

**(立科町議員 芝間教男様)**

立科町の町議会の芝間教男と申します。よろしくお願いいたします。本当に全国ですね、新潟県から東京と長野、そういうことがここにいながらにして会議ができるという体験を今まさにさせていただいているところであります。本日はいろいろと勉強させていただきますので、よろしくお願いいたします。

**(事務局：立科町 竹重企画課長)**

ありがとうございます。次に森澤議員様お願いします。

**(立科町議員 森澤様)**

立科町の議員の森澤でございます。本日はよろしくお願いいたします。こういう会議にも慣れてきたところでございますけれど、今日は町の取り組みがどういうものなのか、どういう仕組みなのか、よくおうかがいしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

**(事務局：立科町 竹重企画課長)**

ありがとうございます。次に榎本真弓議員様お願いいたします。

**(立科町議員 榎本様)**

皆さまお疲れです。私もちょっとしたきっかけがこのような形になり、大変嬉しく思っております。

またテレワークということで、いろいろな生活が変わる中で、ワーケーションということが観光の関わりの中ではまだまだ実際に動きが少ないなと感じております。ですので、これから先ワーケーションというものに注力して、いろいろとこちらの課題を解決していければなと思っています。

あくまでもテレワークというものはツールであり、地方にいても仕事ができるというツールですので、それをどのように観光と結びつけて、これから観光が大変厳しい中で活用できればなと思いますので、また皆さまからお知恵をいただいてやらせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

**(事務局：立科町 竹重企画課長)**

ありがとうございます。次にこの4月から営業チームというものを作りまして、行っているわけですが、そのアドバイザーとして白井様お願いいたします。

**(特定非営利活動法人JASIPA 白井様)**

いつもお世話になっております。NPO法人JASIPAで副理事長をやっております、白井と申します。先ほどご紹介いただきましたように、今年から営業チームのアドバイザーという形で関わらせていただいております。

元々、私は和歌山県出身でして、3年前に「ときどきナガノ」というWebサイトをたまたま見つけて、それに応募して長野県を知りました。その翌年「おためしナガノ」というところで採択いただきまして、立科町を知りました。そこで約半年ほど、月のうち10日間くらい立科町に住んでみて、非常に良い場所だなということと、ポテンシャルの高い場所だなということと、是非こちらと関わりを持てればということといろいろと活動させていただいて、今回こういったご縁を頂戴しております。

私もいろいろと勉強させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

**(事務局：立科町 竹重企画課長)**

ありがとうございます。次に営業チームの皆さん一言ずつお願いいたします。

**(立科町テレワーカー 市川様)**

改めまして、今日は遠いところからお集まりいただいた皆さん、初めましてよろしくお願いいたします。私は結婚を機に立科町に来ました市川と申します。

先日ワーケーションでお会いしたお客様なのですけれど、立科町すごくコンパクトだねと、多分この町の良さはまだ埋まっっていて、できることがたくさんあるのかなと気づかされました。いろいろなお客様と関わることによって、自分たちも町のことが好きになったりだとか、この町の将来性というか、事業の成長・伸びしろのようなものを感じたりしています。

先日お会いしたお客様ともお話ししたのですけれども、お仕事する中でお互いにメリットになることが一番良いよねということで、関わる以上は、お互いにメリットがあり、良い関係を築いて、お互いに成

長していきたいよねという話をしました。

そんな関わり方をたくさんの方々としていきたいなという風に思っております。今日はどうぞよろしく願いいたします。

**(立科町テレワーカー 齊藤様)**

初めまして、齊藤と申します。今年7月からテレワークセンター営業チームの一員として活動させていただいています。

私たちの活動はまだまだ認知が浅く、私自身もこのような活動は初めてで、学ばなければいけない課題がたくさんありまして、皆さまのお力をお借りして、様々なことを学ばせていただき、今後の活動に活かしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

**(立科町テレワーカー 長坂様)**

初めまして、私は一期の時からテレワークのほうにワーカー登録させていただいております、長坂美穂と申します。本日はよろしくお願い致します。

私も7月に営業チームのお話しをいただいて、過去に営業の経験がなかったもので、毎回勉強している言葉が、SWOT分析とかマーケティングファネルとか営業戦略とか、毎回ドキドキするようなワードが多くて、普通の主婦だったら出られないような学びをさせていただきながら今も歩んでおります。

先日企業様がワーケーションでいらっしゃったときに、企業様と直接お話しをさせていただいて、たくさん学ぶことができました。その中で企業様にとっても、私たちの持つ地域課題というもの自分事という風にとらえていただけるような、そんな共感をいただけたらなとすごく感じました。

企業様も私たちワーカーもお仕事だけではなく、お仕事の先にある未来みたいなものを一緒に見ていただければなというような、そんな営業活動ができればなと望んで活動しております。

今日はたくさんいろいろな事をおうかがいしたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

**(事務局：立科町 竹重企画課長)**

ありがとうございます。それでは、町側のほうも自己紹介させていただきます。副町長からお願いいたします。

**(立科町 小平副町長)**

皆さんこんにちは。副町長の小平でございます。Webで参加されている皆さん、ここに参加いただいている皆さん、本当に多くの皆さんのご協力があってこの会議が進んでいくことだと思います。

テレワークについてはまだまだこれから課題もあるかと思いますが、一緒になって皆さんと学んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

**(事務局：立科町 竹重企画課長)**

企画課長の竹重です。今日はお集まりの皆さん、そしてWebでご参加の皆さんの力があって、立科町のテレワーク推進事業がここまで来たと思います。

まだまだご支援いただきたいので、よろしくお願い致します。

**(事務局：立科町 企画振興係 市川係長)**

企画振興係の市川と申します。本年4月からお世話になっておりますが、今回この会議につきましても、初めて出席させていただいております。先般、塩尻市振興公社様のほうにも一度お伺いさせていただいております。私としまして、テレワークを勉強させていただきまして、皆さんにご協力していただきながら、今後も推進してまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

**(事務局：立科町 企画振興係 上前主任)**

お集まりの皆さま、いつもご指導ご鞭撻賜りましてありがとうございます。企画振興係の主任の上前でございます。今日自己紹介だけで45分過ぎてしまい、スケジュールの組み方を間違えたかなとヒヤヒヤしながら話しておりますけれども、有意義な時間になること、それから皆さんどういった人たちが関わっているのかということを知っていただきたく、皆さまに一言頂戴させていただきました。

今日は引き続き、よろしくお願いいたします。

**(立科町元地域おこし協力隊・塩尻市振興公社ディレクター 牧内様)**

牧内です。私は立科町には地域おこし協力隊で来まして、テレワーク事業の最初のところから関わらせていただいております。3年半くらいになります。今日挨拶していただいた、営業チームの3人の方の声を聞いていただければ分かったと思うのですが、ワーカーの皆さんが非常にしっかりしてしまっていて、一緒に営業活動をしているのですけれども、これからどういう営業活動になっていくのだろうと、すごくワクワクしながら、心強いメンバーでこれからやっていきますので、皆さんのアドバイスだったり、ご意見をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

**(立科町 竹重企画課長)**

ありがとうございました。

それでは、会議事項に入ります。これからの議事進行は、議長である副町長にお願いいたします。

### **3 会議事項**

**(1) 今年度の取組みについて**

**(立科町 小平副町長：以下「司会」と記載)**

それでは、私の方でこれからの進行をさせていただきます。

今、皆さんからご挨拶をいただきました。これからスムーズな議事進行に努めますので、ご協力をお願いしたいと思います。

また、ウェブで参加されている皆さんも質問等ありましたら、遠慮なくご発言をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、レジメに沿って進めていきたいと思っております。最初に「(1) 今年度の取組みについて」事務局から説明をお願いします。

**【事務局から資料1、資料2について説明】**

**(司会)**

ありがとうございます。今年度の取組みについて説明をさせていただきましたが、皆さんご意見やご助言ありましたら、ご発言をお願いいたします。

よろしいでしょうか。またまとめて最後でご意見を賜る場所を設けたいと思いますので、よろしくお願いたします。

それでは、「(2) 企業進出型テレワークについて」ご説明をお願いします。

## **(2) 企業進出型テレワークについて**

### **【事務局から資料3について説明】**

**(司会)**

企業進出型テレワークの進捗状況について、説明させていただきました。現在このように進んでいます。かなり資料のボリュームがありますので、また後程ご覧いただきたいと思います。

ご参加の皆さんにご意見やご助言、他にご質問等ありましたらお願いしたいと思います。FM.Beeの高畑さん、もしよろしければご意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

**(株式会社 FM.Bee 高畑様)**

凄く素敵で私自身が参加したいです。正直そんなふうに拝見しておりました。何とか行けないものかなと思ひまして。

**(司会)**

積極的に今年は取り組んでいますので、またぜひ参考にしていただきまして、関係団体にご紹介いただき、また、お来しいただければと思います。

**(株式会社 FM.Bee 高畑様)**

今、カウンセリング自体もリモートで行うという事が増えていて、気分を変えたいとなっているので、先日別の会社のキックオフで情報をいただいた時も、これは凄く良いねという話で盛り上がっていたので、ぜひIT業界にも宣伝したいと思っています。

**(司会)**

よろしくお願いします。他にございませつか。またありましたら最後の方でお願いしたいと思います。続きまして、「(3) 雇用創出型テレワークについて」説明をお願いします。

## **(3) 雇用創出型テレワークについて**

### **【事務局、特定非営利活動法人 JASIPA 白井様から資料4について説明】**

**(司会)**

今、白井さんからいろんな報告をいただきました。

営業チームのワーカーさんから、何か課題等感じている事がありましたら、お願いします。

#### **(立科町テレワーカー 市川様)**

まだ初めて半年にもならないので、やはり手探りでやっているところが沢山あって、あたりをどこら辺に絞っていいのか等、手ごたえのようなものがまだ感じられていないと感じています。

一方で、人との繋がりというのがお仕事をしていく上で大事だと感じているので、ご縁があってお知り合いになったクライアントさんとの関係を構築していく事で、お仕事をいただいて、そして、お仕事を通じてクライアントさんの役に立ち、良い事を共有していきたいと思っています。

ただ、まだ発信等広がり部分が弱く、そういったところがまだ課題かと思っていますので、やり方をこうしたら良いとか、こんなツールがあるとか、皆さんのお知恵をぜひお借りしたいと感じています。以上です。

#### **(司会)**

ありがとうございます。それでは説明をさせていただきましたが、ご意見をいただきたいと思います。最初に仕事をいただいております TOSYS さんの方から何かお話をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

#### **(株式会社 TOSYS 横沢様)**

TOSYS の横沢でございます。営業チームを立ち上げられたという事で、お聞きしていて大変頼もしく思っております。今司会の方もおっしゃいましたが、私どもがお仕事をお願いしている中身も、全くの営業をお願いしている訳ではなく、お客様との接点になっていただくような業務をお願いしております。営業チームがどんどんスキルアップをしていきますと、私どもがお仕事をお願いしている仕事にもそのスキルが伝搬されて、より良い成果が出るのではないかと期待をさせていただいたところでございます。強いて申し上げますと、これから営業成績を増やしていかなければいけないという目的感で、新規開拓を重要視されているというのは良く分かりますし、そうあらねばならないと思いますが、既存のお客様に対するケアというのも一つその中に入れていただくと良いかと思っております。例えば、私どもはその既存のお客様でもありますが、そこに対して、長く継続的にご利用いただくための方向性というものを営業の方が導いていくという事もお考えになっていただくと、より良い営業ができるのではないかと考えます。以上でございます。

#### **(司会)**

ありがとうございます。続きまして、アドバイスをいただいております沖電気の松山さん、何かご意見があったらお願いしたいと思います。

#### **(沖電気工業株式会社 松山様)**

営業チームのプレゼンを拝見させてもらったりしていましたが、やはり、一生懸命やっている姿が気持ちよかったです。たぶん営業と言っても、先程横沢さんが言われたように様々な形の営業があると思

いますので、単に仕事を取ってくるという事以外に例えば、いま横沢さんの話を聞いていてなるほどなと思いましたが、いろんな企業の営業を手伝うのも、形としてありかなど。確かにこれからの職場というか、これからの営業チームという気がしますので、新しい形でいろんな取組みをやる時に、今の心意気でバリバリいろんなことに取り組んでいく姿を外に見せていくのが良いと思います。先日のイベントの時も楽し気な印象が私には伝わりましたので、そういった雰囲気をどんどん広めていくのが大事だと思います。以上です。

#### **(司会)**

ありがとうございます。他に構成員の皆さんから何かご意見あればお伺いしたいと思いますが、いかがですか。

また最後に構成員の皆様からご意見を賜るところがありますので、まとめてそこでお伺いをしたいと思います。

それでは、「(4) 構成員のみなさまから」に移りたいと思います。これまでの内容に対する質問や、この会議において共有したい情報でも構いませんので、ご意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。尾形さんよろしくをお願いします。

#### **(4) 構成員のみなさまから**

##### **(ネットワンシステムズ株式会社 尾形様)**

それでは、11月に開催された総務省の地域アドバイザー会議において、私が働き方改革やテレワークのファシリテーターを務めた際の資料を使わせていただきながら、少しお話をしたいと思います。

働き方改革と地方創生という題ですね。政府は今、リモートワーク推進による仕事の地方移転を考えています。まちひとしごと創生の一つの項目になっています。今までは、首都圏から地方に移住というのが中心でしたが、移住というのは非常に難しいですね。関係人口という表現を使い始めていますが、東京の企業から地方に人ではなく、仕事を移転していくという事に表現が変わってきました。働き方やテレワークがコロナ前とコロナ後では、とても大きく変わったのではないかと私は思っています。どちらかということコロナ前は、移住も含めた形の「どこでも働けます」という場所に囚われない働き方という意味でテレワークが表現されていましたが、コロナ後は、仕事そのものが変わってきています。ワーケーションもその一つだと思います。要するに、全世界の人に起こったことなのですが、価値観とか生き方とかそういったものがガラッとコロナ禍で変わってきているのではないかと思っています。

アドバイザー同士で話した中では、地方住民への仕事の移転のためには、地方のコンテンツの発信力が必要だという意見が出ました。先程市川さんもおっしゃった発信していく力ですね。そのためには、今回市川さんにもやっていただきましたが、プロデューサーのようなそういった方達が必要だという事がまず一つ。

それから、下請化しないクラウドソーシングという形ですね。クラウドソーシングとは、クラウドを使って仕事を受けるというもので、最近副業にもなってきています。しかし、非常に安価で仕事を請けるといった弊害も起こっているようです。最低賃金は守らなくてはいけないし、請ける方もやって良かったとなるような仕組みのためには、中間組織や財団法人、自治体といった責任を持ったある程度の組織が必要ではないかという事が一つ挙げられています。

あとは、地域のコミュニティをつくる事です。今日の営業チームの皆さん3名、5年前は自信がまだまだ無かったのが、堂々とお話されていますよね。ここに至るまでにパソコンの知識を付けたり、企業と会話できるような場を作ったり、色んな教育をやってきたかと思います。こうしたリカレント教育とか、学び直しを通じてコミュニティを構築してきました。これは立科町がまさにやってきた事で、これがとても大切だという事です。

それから、遊休施設の有効利用です。立科町さんは総務省のお金は使いましたが、2階が空いていたところを利用して、わざわざハコモノを作らず、今ある遊休施設で十分できますよということですね。今後、移住という話が出てくると、空き家対策が次の課題になってきますね。

あとは、何と言っても総務省も進めているインフラですね。5G含め、ソサエティ 5.0 に向かった地域全体としてのインフラ整備が必ず必要になります。この部分は、立科町さんは積極的に取り組んでいかなければならない点も多く、課題かと思います。

という事で、今までは人口も働く場所も東京一極集中でしたが、現在、コロナが押し掛かってきた事でサプライチェーンの再構築が激しく起こっています。小売りとか中間の卸とかそういったところではなく、皆さんも利用していると思いますが、Amazon や楽天を使った直接の商取引がどんどん増えています。そうなると社会もどんどん変わってくるという事が予想されます。加えて、環境の変化もあるので、働き方を考え直す大きな機会が来ているのではないかと思います。

政府も人口減少対策と少子高齢化対策という政策を進める中で、二つ柱を持っています。一つは、地方への移住促進と絡めて進めているワーケーションという部分で、これは観光や地域の関係人口の拡大を狙って進めている軸ですね。あともう一つは、地域力の強化です。やはり、地域は地域で自ら稼いでいく力をつけていくべきだという事です。この2本柱がないと関係人口を作っても「楽しかったね、さようなら」で終わってしまっていて、何にもなりません。しかし、立科町さんはワーケーションと雇用創出型テレワークという二つの柱ができています。これは、最近増え始めたワーケーションの施設とは全く違うものなので、この5年間やってきた立科テレワークというのは、ある意味先進的で、言い過ぎかもしれませんが、日本が学ぶべきモデルではないかと私は思っています。ここの成功は全国に波及していくのではないかと思います。

東京はBCP対策とか待機児童とか、育児と仕事の両立だとか満員電車だとか、もうこんな所では働きたくないという人が多聞に出ています。弊社も10月からは定期代の支給が無くなりましたし、テレワーク手当になってしまいました。オフィスも来年からは削減するという話になっており、東京で一人暮らしをしていた2年目の社員は、テレワークなら姫路に帰ると言っていて、姫路でテレワークをしてもらっています。そんな時代なのです。ですから、地方拠点に私ども社員もどんどん移り、自分たちが慣れ親しんだ所に帰って元気良く仕事をするという事に弊社も変わってきています。それと同時に、地方の誰でも利用できるこちらの会場のようなコワーキングスペースが必要になります。Wi-Fiが自由に使えて、オンライン授業を受けている人や色んな方が集まっているとお聞きしました。このコワーキングスペースとこちらの2階のテレワークセンターのような施設が大切になっていくという事です。

あとは、どのように営業して仕事を取ってくるかという事です。営業チームの方々にはやっていただいているところですが、ここがこれからの大きな課題だと思います。先程ワーカーさんが、来てくれた企業さんが非常に興味を持ってきて、可能性を感じるという事をおっしゃっていましたので、企業さんとコミュニケーションを取っていきながら、どのようにしたら仕事を出せるのか。それからTOSYSさんが



おっしゃったように、既存のお客様に対してどういったサービスを提供できるのか。こういったところを考えると地道にやっていけば、必ず伸びていくと思いますし、既に去年の倍の受注実績にもなっているので、一過性ではない取り組みをやっていく事がとても大切ではないかと思っています。

新たな生活様式への対応と QOL の向上という事で私なりに考えてみましたが、ワーケーションというのは一つの流行りではないですが、地方は白馬とか軽井沢とか白浜ばかりではないですよ。むしろあまり観光資源のない地方の方が多いかと思っています。そうするとコアになる場所は何かという、やはり、生き方の見直しや、リカレント教育、学び直し、あとはキャリアコンサル等こういったところがコアになりながら、コワーキングスペースやテレワークを利用しつつ、ワーケーションも含んで関係人口を取っていくという事ができれば、最終的に移住や空き家対策というところに広がっていくのではないかと私は考えています。ですから、まさにコアの部分をやっている立科テレワークモデルというのは、人を大切にするという取り組みの仕方という意味でのテレワークという新たなモデルになるのではないかと考えています。

東京に立地する企業の思いと、自治体さんが思っている事というのは必ずしも一致していません。企業はどちらかというと生産性の向上とか、人材確保とか、事業継続性とかそういったコスト中心に考えています。かたや自治体さんの方は、地方移住とか、空き家対策とか、ワーケーション等が中心かと思っていますので、あまり直接的には一致できていないですよ。白浜で実施した事のコピーがここでできるとは限りませんので、サテライトオフィスとかリモートワークとか地域ごとのプラスαの立科町独特のテレワークの形が必ずあるはずですよ。それから働き手と、大学生等の学生と、インフラ、ICT ですね。これからデジタル庁ができますが、ペーパーレスになるとどこでも働けるようになります。本当に急激な社会変革がこれから起こりつつあるので、こういったところを地域ごとにどう考えていくかという事を議論しながら進めていけば、非常に可能性があると思います。2、3年後はここが手狭になってしまっていて、第2のテレワークセンターをどこにしようかという話を皆さんとしたいですし、見学が全国から来て、対応する人が必要だという話ができたら楽しくありませんか。私はそうなるとうれしいと思っています。

テレワーク推進事業の発足時は、塩尻市振興公社さんのいろんな仕組みを聞いて、ここの仕組みを作っていただいています。この仕組みについて悩んでいる自治体さんは実は多くあります。長野県は、ふるさとテレワークも全国的に7件程やっていて、先進的なテレワーク県です。石田さんにもお世話になりましたが、そういったところを地域連携しても良いのではないかと考えています。ここだと茅野市や佐久市など。先程、障がい者の方の話が出ましたが、そういった事は同じ悩みですから、それぞれの地域に就業希望者がいるわけなので、お互いに情報交換していただくと良いかと思っています。基本的に自治体さんは、自治体さんのお金を使うので、自分の所で就職して欲しいという事になるとは思いますが、そうではなくて、そういった悩みは面で拾っていくべきだと思いますので、地域連携というのも大きな課題になっていくのではないかと考えます。このあたりは、先輩の塩尻市振興公社さんが2億円以上の規模のテレワーク事業を実施していますから、そういったところの課題もよく聞いて学ばせていただくと良いかと思っています。ありがとうございます。

#### (司会)

ありがとうございました。

とてもいいお話を聞けたと思うのですが、ご参加の皆様、ご質問、ご意見等ございましたらお願い致します。アシストビジョンの乙吉さんいかがですか。

#### **(株式会社 アシストビジョン 乙吉様)**

こちらとのきっかけは、3年前のアンケート調査です。私共も何か協力できないか、更に、社員の通勤時間をゼロに近づけていきたいという思いがございました。現在、コロナ渦で、テレワークが当たり前になってきておりました、弊社も3分の2程の社員が在宅勤務を行っております。本来はこのような形ではなく、郷里に帰るなど、お母さんお父さんと長く暮らして、東京の狭い部屋に高い家賃を払ったりしなくても良い。通勤時間について私が一番感じていましたのは、会社員や公務員がどれだけ通勤時間に時間を割いても、勤務時間とはみなされないところです。

そのようなところを、余暇・趣味・社会活動・ボランティアなど、好きなことに時間を割いて、リフレッシュしていただく。そこで学んだことを仕事に活かしていただくのも良いです。働く場所に行く為だけに取られてしまう時間を、ゼロにしたい思いがございました。

こちらの会議に入れていただいて、色々な方々のお話を参考にしながら、上手くいっておりました。社内アンケートの結果も、既存の社員の佐久市出身の2名と、昨年の新卒で立科町の蓼科高校から採用しました1名、その3名の社員達は元々、永住を前提に転勤を希望すると一番強い形の希望を出していました。その他にも、全体で半数位の社員が、期間限定、若しくは業務命令とあればこちらへ来ても構わない、という結果でした。このことから、半数以上の社員が前向きな姿勢を示していたのですが、今年3月くらいからコロナ渦という状態になりまして、直近の人事考課で希望を聞き直したところ、在宅出勤という形でテレワークが実現してしまっているの、田舎に帰りたくないという希望の転換が起きました。本来は強く希望していた社員が、今のままでも良い。テレワークさえ実現すれば郷里に帰らなくても良い。という後ろ向きの形になってしまったので、私共としましても、計画の練り直しも必要と感じていますし、立科町さんのほうにも、やっぱり郷里に帰りたい。という希望が強く蘇ってくるような知恵をお借りしたいと感じております。

私事で非常に恐縮ですが、コロナ渦の影響の中で、テレワークの形が、弊社の中では少し変わってきてしまった、という残念な事例もお知りおきいただければ光栄でございます。私からは以上です。

#### **(司会)**

ありがとうございます。コロナ渦という状況で、若干の変化が生じてきてしまったようですね。

先程、営業チームの活動報告を市川さんからいただきましたが、他の方で、現在の課題や、思うことがございましたら、お話をいただきたいのですが、いかがですか。

#### **(立科町テレワーカー 斉藤様)**

課題としまして、私達はSNSを始めましたが、その情報発信の内容など興味を示していただけるような情報を発信していくのには、どうしたら良いかと考えております。

#### **(立科町テレワーカー 長坂様)**

私も、立科町テレワークセンター、テレワーカーというのは、認知度がまだとても低く、SNS や、町の広報物で広めて、認知度を増やしていくということが、現在の課題だと感じております。しかし、現在 SNS の発信が、BtoC になってしまっていて、なかなか具体的な BtoB の投稿が出せないのも課題と感じております。これから、色々アドバイスいただけたら、それを参考に発信していきたいと思っております。

**(司会)**

ありがとうございます。では、ディレクターの牧内さん。

**(立科町元地域おこし協力隊・塩尻市振興公社ディレクター 牧内様)**

今週の東京の会社の方とのディスカッションでのことなのですが、会社の方達が、自宅で働くことがテレワークですね。しかし、首都圏の企業さんに、“テレワークセンター”“テレワーカー”と言いますと、自分のところの仕事をしてもらう人のことを指しているとは、とても思えません。とこの間も言われました。私もこちらに移住して来て、テレワーク事業と聞いて、自分がいる会社の仕事を持ったまま、ここで、リモートで、スタバで仕事をするようなイメージでした。やはりテレワークと言いますと、首都圏の企業さんでは多分 99 パーセント前後、そのような考えになります。ですので、課題としては、立科町のテレワーク事業と、事業名はとても良いと思います。

しかし、営業をしていくにあたり、この間も“テレワークセンター”とプレゼンをしましたが、テレワークセンターという場所とはご理解をいただけたと思いますが、そこに自分達の業務を出せるということがピンとこないということを感じております。では何が良いのかが一番の悩みです。実際、営業していくに渡り、チラシ等も作っていかなければいけないのですが、そこに、立科町テレワークセンターで良いのか、テレワーカーで良いのか。どのような名前で認知度を上げていけば、仕事をしていただけるか、それと共に安心を持っていただけるか、ということが悩みです。

**(司会)**

ありがとうございます。立科町の先進的な取り組みをされております、一般財団法人塩尻市振興公社の柳沢様、その点についてお聞かせいただいても宜しいですか。

**(一般財団法人塩尻市振興公社 柳沢様)**

今、牧内さんからでていますように、テレワークセンターと言いますと場所ですし、テレワーカーと言いますと人です。このところで、私達がこのような仕組みで動いていますよ、というのを、私達の場合は“KADO”で知っていただきまして、KADO=テレワークセンターでテレワーカーさんを使って仕事を受注して、業務を生んでいるところだな、と地域の中では思っています。

新聞で取材してもらうにも、子育ての方が働いていますよ、障がい者とも一緒に働いていますよ、と色々な切り口から KADO の名前を出しています。説明をするときに本当に説明しづらい、という牧内さんの気持ちはよく分かります。そのときには有耶無耶に、KADO は、のように言い切ってしまうので、立科にも、立科のテレワークセンターと、立科のワーカーさんの名称がひとつあると、PR しやすいかもしれません。現在営業チームに名前はございますか。

**(立科町元地域おこし協力隊・塩尻市振興公社ディレクター 牧内様)**

“タノシーテ”です。

**(一般財団法人塩尻市振興公社 柳澤様)**

例えばそれを立科の仕組みの代表の名前にしたり、何か愛称があるとやりやすい気がいたします。

**(司会)**

ありがとうございます。これに限らず、皆様何かご意見はございますか。

**(一般財団法人塩尻市振興公社 青山様)**

私は会社の中で、元々塩尻と関係がございました。自分の職務の中で、仕事が出せるものを、塩尻市振興公社に仕事を出しています。そのときはどちらかという、雇用創出型からスタートしたと思います。

元々の発想は、東京で間接部門の仕事をする必要があるのか、というところが出発点になりました。どこに行ってもできる仕事をわざわざ、住居費、生活費の高い東京でやる必要があるのか、とずっと思っていました。そこに塩尻というきっかけがありまして、特に東京で時間外の仕事が多かったものですから、過重労働の問題もありましたので、時間外の部分を塩尻にお願いいたしました。

社員の過重労働も防げますし、そのまま東京で仕事を何十時間とやり続ける必要があるのか、ということの解決を図りました。

コロナ禍前に考えていたのですが、コロナ禍になりました結果、雇用創出型というよりは、今後、間接部門を立科町に持って来ることにも出来るのではないかと。そうなりますと、間接部門の1人や2人が、立科町で仕事をするようになります。そこに営業部隊やマーケティング部隊が仕事の打ち合わせに来る、そのような形が状態化していくと思います。そうなりますと、こちらに間接部門の仕事を持って来る為の、仕組み作りも必要となります。そのあたりは、今後の立科町は有望で、特に可能性は高いと思いますので、その点では、色々なお手伝いもさせていただききたいと思います。

将来的には、企業型と雇用創出型のハイブリット型がやってくるのではないかと。私は、それをいち早く取り入れた自治体が、ある意味では制していくのではないかと、という気がしております。

**(司会)**

ありがとうございます。良い参考意見をいただきました。他にございますか。

**(総務省 信越総合通信局 藪井様)**

貴重なお話をありがとうございました。

今年の1月と2月に、総務省主催で、サテライトオフィスマッチングセミナーというのをさせていただきました。これはサテライトオフィスの誘致に取り組む自治体様と、サテライトオフィスに関心をお持ちの企業様との交流の機会を図るものでしたが、立科町様は参加をされなかったようですが、何かご事情がございましたか。

**(事務局：立科町 企画振興係 上前主任)**

ありがとうございます。

当初、お越しいただければ、ご案内させていただいたと思うのですが、サテライトオフィスと名の付くものが、実は1ブースしかございません。そちらはアシストビジョン様に入らせていただいておりますので、改めてマッチングをする必要がございませんでした。その理由で、そちらのセミナーには参加を致しませんでした。情報のキャッチアップはしておりますけれども、必要性に応じて、判断をさせていただいた所存でございます。

**(総務省 信越総合通信局 藪井様)**

分かりました。本日のお話を聞かせていただいて、立科町さんのやり方は特殊な形ですので、サテライトオフィスではないにしても、このような場でアピールや説明をしますと、そのようなやり方があるのだな、と企業さんに興味を示していただくことも有り得ると思いました。ありがとうございます。

**(事務局：立科町 企画振興係 上前主任)**

ありがとうございます。

おっしゃる通りのところがあると思いましたので、白井さんと営業チームに私に入った藪井さんからいただく情報も、関係するものをどんどん流していきますので、活動として、ご検討をいただければと思います。

**(特定非営利活動法人 JASIPA 白井様)**

よろしくをお願いします。

**(司会)**

他にございますか。

**(立科町議員 榎本様)**

これから、商品の営業を掛けていくにあたり、どのような人達が買い手側になれるのか、と想像をしてお話を聞いておりました。大手企業様のような人達ばかりなのか、個人事業主のような人を、これから立科町のセンターが、営業をかけるのか。自分も商売をしている中で、どのように連携が取れるのかと思いました。問題としては相場観かと思えます。

商品があれば、その商品がいくらかという相場観が、生活の中で大体は分かりますが、あまりにも空間にあるものなので、これがいくらなのかという相場観が、消費者側によく分からない。ですので、営業を掛けていただいたときに、最初の契約の金額が想像出来なくて、手が出せないと思いました。車であればいくら、卵であればいくら、と相場は分かりますが、皆様の事業は比較が出来ないので、どのくらいの金額の世界で動いているのかが見えません。自分が顧客になれるのかと考えたりしまして、これからどのように営業をされるのかと思いました。知らないからこそ、余計に引いている部分も自分の中にはございます。営業を掛ける世界が、もう少し伝わってくると、私達も色々なところでご縁をつけて、紹介ができます。それをどのように見せてもらえるのかというところがございました。以上です。

(司会)

ありがとうございました。白井さんここで何かお話できることがございましたらお願い致します。

(特定非営利活動法人 JASIPA 白井様)

企業の後ろで作業をするようなところを、リモートで提供していること BPO と言いますが。

例えば、チーム補助などで、派遣社員を呼びたい企業さんがいらっしゃったときに、その部分を代行するような形になります。そうすると、派遣社員が来た時の時給がいくらくらいで、月あたり何時間くらい働いてもらう、というのをイメージしてもらおうと良いかと思います。

当然、作業内容によって単金は変わってきたりもしますし、最低賃金もございますので、そこは変動するのですが、おっしゃる通り、車やパソコンなどではないので、イメージがつきづらい部分もございます。イメージしていただくとすれば、今話したような内容になるかと思います。

(司会)

尾形様、お願いいたします。

(ネットワンシステムズ株式会社 尾形様)

榎本さんのご意見は、その通りです。

基本は、派遣やパートさんを雇う金額が基準になると思います。しかし、派遣やパートと違いますのは、ここは安いから頼む場所ではありません。そうではなくて、このような、社会福祉型テレワーク事業を目指している立科のやり方に、まずは共感をしていただく。これは地域課題の解決にとっても役に立つな、お母さん方に仕事が回り活き活きしているな、など取り組み自身に、共感をしていただいた方や企業が、まずはターゲットかと思います。

あとは、どこの業種をターゲットにするかが、これからの課題です。

先程、青山さんがおっしゃっていましたが、例えばバックオフィス系の、例えば、交通費の精算など、どこの企業にも同じような作業がありますが、営業活動ではないけれども、企業としては必ずある仕事、財務、会計、人事、そのような業務が出しやすいところです。

牧内さんがおっしゃっていましたが、リンゴの発送の業務を、パソコンを使って業務効率を上げるなど、ここの地域ならではの業務は、充分受けていらっしゃるの、まずは、共感していただくこと。そして、試してみよう、という気持ちのある企業など、地域課題の解決、地方創生に少しでも役に立ちたいという気持ちを持っていただいているところに、まずはお声がけいただければありがたいと私は思います。

(事務局：立科町 企画振興係 上前主任)

榎本議員さんのおっしゃっていただいたことは、進めていく中での課題として感じていました。何かとありますが、業務の受け方、契約の流れなど、仕事のフローの見える化が必要だと思っています。

もう1つ、私達に何ができるのか、どのような業務ができるのか。ということ。更に、相場観です。これまで、これまであまり実績が無かったので、見える化の作業が出来ませんでした。現在は実績が積み重なってきておりますので、その辺りを、どのような形で見せていき、どのようなツールが最適なのか、

Web やチラシだと思っておりますが、営業チームさんの方で項目整理をしまして、これから製作に入っていただきます。製作の際には、宮下社長様の御力添えもいただきながら、やっていく形ですので、乞うご期待いただければと思っております。その際には皆様にも是非、御協力をいただきたいと思っております。

**(司会)**

ありがとうございます。それでは、会議事項はこれにて終了致します。次に、4のその他になりますが、事務局長や皆様から何かございましたら、お願い致します。

**4 その他**

**(事務局：立科町 企画振興係 上前主任)**

本日は、お時間ありがとうございました。

本日の会議の議事録、資料につきましては、立科町の公式ホームページで、全て公開させていただく予定でございます。1ヶ月以内くらいには、作業を完了したいと思っております。その際議事録につきましては、発言いただいた皆様に、内容の確認をいただきたいと思っておりますので、その点御協力をお願い致します。

過去の会議の資料につきましても、既に立科町のホームページに載っておりますので、立科町の公式ホームページの検索のバーで、“テレワーク”と入れていただければ、ご確認いただけますので、そちらも併せてご覧下さい。以上です。

**(司会)**

以上を持ちまして、本日の協議を終了致します。御協力ありがとうございました。

**(事務局：立科町 竹重企画課長)**

長時間にわたり、ご協議いただきありがとうございました。皆さまには引き続き、立科町テレワーク事業にご支援いただければ幸いに存じます。ただ今をもちまして、令和2年度第1回立科町テレワーク推進会議を閉会とさせていただきます。ありがとうございました。